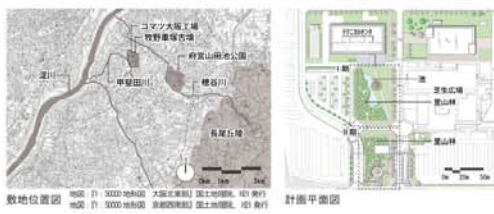




建築と調和する里山ビオトープの創出と順応的管理 小松製作所大阪工場「コマツ里山」

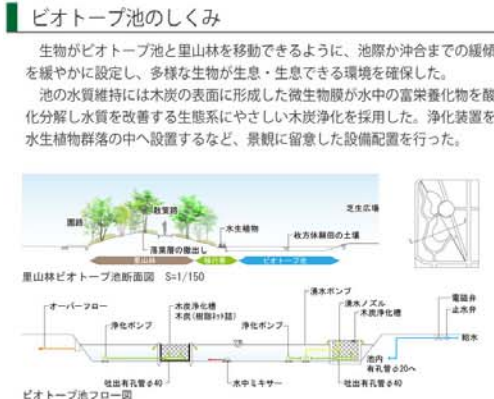


写真：福澤陽典



計画概要 企業の顔となる生物多様性を考慮した里山ビオトープ

建設機械・重機械メーカーであるコマツの大阪工場における、施設の集約建替えによる建物跡地の緑地広場である。敷地は淀川の東側約2.2km、淀川河岸段丘の低地から丘陵地に位置し、東側は水田、公園、さらには長尾丘陵の緑が広がっており、ビオトープネットワークの拠点として機能すると考えられた。コマツの環境方針である「生物多様性の向上」を考慮して、枚方地域の里山緑地環境を再現する「コマツ里山づくり」を整備コンセプトとした。計画地はテクニカルセンターの前庭でもあり、アプローチ空間に相応しい機能的でシンプルなデザインのリニア広場と長尾丘陵の里山をモデルとした里山林、ビオトープ池で構成した。従業員の安らぎの場と共に、来訪者を迎える地域らしい緑地景観が実現した。完成後モニタリング調査を行い、生態の変化を把握すると共に変化に対応する管理方針を策定し順応型の維持管理に繋げている。



設備・環境デザインの評価

評価項目	評価内容	評価結果
1. 計画段階	1.1 計画の明確化	○ 2
2. 設計段階	2.1 設計の明確化	○ 2
3. 施工段階	3.1 施工の明確化	○ 2
4. 完成段階	4.1 完成の明確化	○ 2
5. 維持管理段階	5.1 維持管理の明確化	○ 2
6. 評価段階	6.1 評価の明確化	○ 2
7. その他	7.1 その他	○ 2

